

メキシコ政治情勢（4月）

〈概要〉

【内政】

- ・ 4日、ペニャ・ニエト大統領はイノホサ下院議員を新農牧大臣に任命した。
- ・ 22日、大統領選挙候補者による第1回公開討論会が行われた。

【外交】

- ・ 4日、米国土安全保障省が米国南部国境への州兵の配備を発表したことに関し、ビデガライ外相がニールセン米国土安全保障長官と会話をを行った。
- ・ 5日、ペニャ・ニエト大統領は、4日の米国土安全保障省による米国南部国境への州兵の配備の発表に対し、墨国民及びトランプ米大統領に向けたビデオメッセージを発出した。
- ・ 8日、墨外務省は、シリアにおける化学兵器使用の可能性に対する深い懸念を表明した。
- ・ 12日、ペニャ・ニエト大統領は、メキシコを公式訪問中のソールベルグ・ノルウェー首相と首脳会談を行った。
- ・ 14日、墨外務省は本年7月に行われる同国選挙への外国人選挙監視団受け入れに関する米州機構（OAS）との合意に署名した。
- ・ 14日、ペニャ・ニエト大統領は、ペルー・リマにて開催された第8回米州サミットに出席した。
- ・ 16日、フランスを公式訪問中のビデガライ外相は、マクロン仏大統領及びル・ドリアン（Jean-Yves Le Drian）仏欧州・外務相当相と会談を行った。
- ・ 20日、ペニャ・ニエト大統領は、ディアスカネル・キューバ国家評議会新議長に対し、電話にて議長就任に関する祝意の伝達を行った。
- ・ 20日、墨外務省は、北朝鮮による核実験及びICBMの試験発射の中止発表に関し、プレスリリースを発出した。
- ・ 21日、ペニャ・ニエト大統領は欧州歴訪へ出発し、翌22日、ドイツ・ハノーバーにて Hannover Messe（国際産業見本市）開会式等に出席した後、23～24日にオランダ、25日にスペインを公式訪問した。

〈内政〉

1 イノホサ新農牧大臣の任命

- (1) 4日、ロス・ピノス大統領官邸で行われた式典において、ペニャ・ニエト大統領は、イノホサ（Baltazar Manuel Hinojosa Ochoa）下院議員を新農牧大臣として宣言した。
- (2) 同大統領は、新農牧大臣に対し、3つの優先分野に取り組むよう指示したと述べた。
 - (ア) 優先分野1：世界12位の食糧生産国として位置づけられるメキシコの農耕地の生産を拡大し続けること。

(イ) 優先分野2：メキシコの生産者にとって好ましい、この20年以上で初めて貿易黒字を記録した農業輸出を促進すること。

(ウ) 優先分野3：工程の現代化及び生産性の向上に重点を置いた、農業の技術化及び機械化を含む、農業、牧畜及び漁業開発の活動を深化すること。

(3) 同大統領は、3月16日に、2015年8月27日から職務にあったカルサダ (Jose Calzada Rovirosa) 前農牧大臣の辞表を受領した。大統領は前大臣の奉仕及びその任期中にメキシコの農耕地で達成された前進につき評価した。

農牧省内規39条に基づき、新大臣が任命されるまでナルバエス (Jorge Armando Narvaez Narvaez) 次官が職務を代行した。数週間にわたり、農牧省を良い方向に導いたナルバエス次官の尽力と効果的な仕事に対し、感謝の意を示した。

新農牧大臣として任命されたイノホサ氏は、過去3度連邦下院議員を務め、立法府において顕著な経験を有している。連邦政府においては、農牧市場商業化・開発サービス局 (農牧省外部機関) 局長を務めたほか、BANOBRAS (メキシコ公共事業銀行) 評議会のメンバーを務めた。また、(タマウリパス州) マタモロス市長、タマウリパス州社会開発長官及び同州教育文化スポーツ長官を歴任した。

ペニャ・ニエト大統領は、新農牧大臣の成功を願うとともに、同大臣の行政府における強固な知識及び幅広い経験によって、その高い責任に見合う効率性を持って当該職務を果たすことを確信していると述べた。

2 大統領選挙候補者による第1回公開討論会

22日、大統領選挙候補者による第1回公開討論会が行われ、全候補者 (ロペス・オブラドール候補 (「共に歴史を作ろう (Juntos Haremos Historia : JHH)」 (国家再生運動 (Morena)、労働党 (PT)、社会結集党 (PES) による選挙同盟)、アナヤ候補 (「メキシコのための前進 (Por Mexico al Frente : PMF)」 (国民行動党 (PAN)、民主革命党 (PRD)、「市民運動」による選挙同盟)、ミード候補 (「全てはメキシコのために (Todos por Mexico:TM)」 (与党制度的革命党 (PRI)、緑の党、新同盟党による選挙同盟)、サバラ候補 (独立系)、ロドリゲス候補 (独立系) の5名) が出席した。討論会においては、汚職対策及び不処罰への対応、公共の治安・暴力及び民主主義について討論が行われた。

〈外交〉

1 米国南部国境への州兵の配備に対する反応

4日、米国土安全保障省が米国南部国境への州兵の配備を発表したことに関し、同日、墨外務省は、ビデガラ外相がニールセン米国土安全保障長官と会話をを行った旨のプレスリリースを発出した。

(1) 4日、ビデオライ外相はニールセン長官と会話をを行った。同長官は墨政府に対し、メキシコとの国境における州兵の配備決定について以下の説明を行った。

(ア) 州兵は、国土安全保障省の業務の支援のみを行う。

(イ) 州兵は、武器を携行せず、入管及び税関の業務は行わない。

(ウ) 今次州兵の配備は、2006年（ジョージ W.ブッシュ大統領時代）に実施された **Operation Jump Start** や2010年（オバマ大統領時代）に実施された **Operation Phalanx** と同様の性格を有するもの。

(2) 本件についての全てのやりとりにおいて、墨政府は米国政府に対し、もし発表された州兵の配備が国境の軍事化という結果になるのであれば、墨米二国間関係を大きく損なうことになるであろうと表明した。また、墨政府は、米国におけるメキシコ人の尊厳及び人権を尊重することが根本的に重要であることを改めて表明した。

(3) 墨政府は、当該措置についてフォローアップするために国土安全保障省との間で恒常的な連絡を維持するとともに、常にメキシコの国家主権及び国益に注意を払いながら、今後の適切な対応を決定する。

2 米国南部国境への州兵の配備に対するペニャ・ニエト大統領のメッセージ

4日の米国土安全保障省による米国南部国境への州兵の配備の発表に対し、同5日、ペニャ・ニエト大統領は、墨国民及びトランプ米大統領に向けたビデオメッセージを発売した。メッセージの概要は以下のとおり。

(1) メキシコ国民の皆様

(ア) 自分（ペニャ・ニエト大統領（以下、同じ。））は皆様に対し、メキシコにとって大きな重要性を有する、墨米関係の最近の出来事についてお話しする。1年少し前、自分はメキシコの外交政策の責任者として、墨政権がトランプ米政権とどのように付き合っていくかについて2つの基本原則を設定した。その第1は、何よりも先ずメキシコの国益、主権及びメキシコ人の尊厳を守ることであり、第2は、建設的且つ開かれた視点を維持することにより、困難を克服し、共通の課題に対処し、合意に達することであり、我々はかかる基本原則に沿って対応してきた。

(イ) 墨政府は、制度化され、相互尊重に基づいた、両国に裨益する墨米関係の構築のために取り組んできた。即ち、北米地域における競争力の向上及び雇用の創出のためにNAFTAの近代化のための交渉を推進し、墨社会に大きな悪影響をもたらす国境を跨ぐ組織犯罪との戦いを強化してきた。メキシコはかかる重要な取り組みを通じて共通の責任を認識していたからこそ、いかなる時においても協力を惜しんだことはなかった。そして、当然のことながら、常に米国の法律を遵守しつつ、日々、米国にいるメキシコ人の人権を保護してきた。

(ウ) 墨米二国間関係は、両国が活用すべき極めて大きな機会を有しており、強くそして

活発なものであるが、当然のことながら問題も生じる。しかしながら、かかる問題は、両国間における脅迫的な行動や非尊重を正当化できるものではない。メキシコ人の中にも意見の違いはあり、特に選挙期間中はかかる傾向が強まる。しかしながら、我々はメキシコの尊厳と主権を守ることに常には常に団結している。したがって、昨日、墨連邦上院議会が全会一致で（米国に対し）メキシコ人に対する攻撃的且つ根拠の無い発言を非難し、隣人、パートナーそして同盟国としての関係における尊重を有した対応を求めた。

（エ）立法府によるかかる宣言に墨大統領候補者も加わり、全ての候補者が、別々の機会において、良き隣人に対して対抗する（米国による）措置を拒否することで一致した。アナヤ「メキシコのための前進（PMF）」候補は、今は国家が団結する時であり、本件は選挙キャンペーンの問題ではなく、国家の問題であると述べた。ロペス・オブラドール「共に歴史を作ろう（JHH）」候補は、発展のためには武力の行使ではなく、友好及び協力関係が必要であり、壁は不要と述べた。ミード「全てはメキシコのために（TM）」候補は、今はメキシコ人の全てが国家主権と尊厳を守るために団結する時であると述べた。サバラ候補は、今は国家の尊厳を守る時であり、メキシコ人の全てが1つの声で尊重を求めると述べた。自分は墨大統領として、かかる発言に同意する。

（オ）メキシコは、広大であり強い国である。我々はその偉大な歴史と文化、活発な現在、そして輝ける将来に誇りを持っている。メキシコは、活動的、革新的そして才能に溢れた国であり、寛容で大きな心を持った国でもある。他方でメキシコは価値と原則を有した主権国家であり、1億2500万人の国民が自身に誇りを持っている。

（2）トランプ大統領

（ア）もし貴大統領が（両国間の問題について）メキシコと合意に達することを望むのであれば、我々は準備ができています。これまで行ってきたように、我々は常に真剣、誠実そして建設的に対話を行う用意がある。

（イ）もし、最近の貴大統領の発言が自国の国内政治によるフラストレーションや自国の国内法、又は自国の議会から来るものであれば、かかる発言はそちらの方に向けるべきであって、メキシコ人に向けてはならない。貴大統領による否定的な言動が我々の行動に影響を与えることはなく、我々はメキシコ人の利益を最大にするために行動する。

（ウ）米国の偉大なある大統領による「我々は交渉することを恐れはしないが、恐れから交渉することはない」との言葉を想起したい。我々は、友人、パートナーそして良き隣人として合意を達成した方が、対立するよりも遙かに良い結果をもたらすことを確信している。我々はいつでも交渉する用意があるが、常に相互尊重に基づくものでなければならぬ。全てのメキシコ人が完全に一致していることは、何者もそして何人もメキシコの尊厳の上には存在しないという確信である。

3 シリアにおける化学兵器使用の可能性に対する懸念の表明

8日、墨外務省は、シリアにおける化学兵器使用の可能性に対する深い懸念を表明する旨のプレスリリースを発出した。

コミュニケ No.87

(1) メキシコ政府は、2018年4月7日にシリア・アラブ共和国のドウマにて確認され、女性及び子供を含む70名以上の民間人死者を出した、化学兵器を使用したと推定される攻撃に関する情報に接し、外務省を通じて最も深い懸念を表明する。

(2) メキシコ政府は、いかなる主体によるものであっても、いかなる状況下にあっても、国際法及び国際人道法の規程に違反する化学兵器の使用に対し、断固たる非難を改めて述べる。

(3) 化学兵器禁止機関及び国連安全保障理事会が本件攻撃を確認した場合、国際人道法、人権及び化学兵器禁止条約の明白な侵害を構成することになる。

(4) メキシコ政府は、化学兵器禁止機関及び国連安全保障理事会による本件のフォローアップを引き続き注視する。

4 ペニャ・ニエト大統領とソールベルグ・ノルウェー首相との首脳会談

12～13日の日程でメキシコを公式訪問中のソールベルグ・ノルウェー首相は、12日、ペニャ・ニエト大統領と首脳会談を行ったところ、墨大統領府及び外務省が発出したプレスリリースに基づく概要は以下のとおり。

(1) 4月12日、ペニャ・ニエト大統領は、国立宮殿にソールベルグ首相を招き、首脳会談を行った。

(2) 両首脳は、両国間の政策対話の強化及びエネルギー及び多国間の分野における新たな協力の機会を特定するために両国が開始した共同作業について意見交換を行った。また、両首脳は、両国が関心を有している貿易及び投資の増加について議論を深めた。

(3) ペニャ・ニエト大統領は、エネルギー分野開放の枠組みの中、メキシコ湾の深海油田の採掘に120億ドルの投資を行うことを約束したノルウェーの石油企業 Statoil に謝意を表した。

(4) 両首脳は、メキシコとノルウェーが、国連改革、2030アジェンダの実施、国連平和維持活動のためのオペレーション、性的平等、海洋の保護等のグローバルな課題の優先的なテーマにおいて、幅広く一致していることを強調した。この点において、ペニャ・ニエト大統領は、ソールベルグ首相による「持続可能な海洋経済の構築に向けたハイレベル・パネル」への招待に謝意を表明し、同パネルへの参加を改めて表明した。

(5) 両首脳は、最近の北米、ラ米、欧州地域における事案について意見交換を行い、墨側は、ノルウェーが2016年からオブザーバー国となっている太平洋同盟において、ノルウェーがプロジェクトを具体化することができるよう支援を申し出た。

(6) 両国の法的枠組みを強化するため、会談の後、両首脳は、(ア) 両国における主要な

進捗事項及び両国の貿易・投資の拡大・多角化のための新たな約束についての共同宣言、並びに（イ）海洋資源の保護及び持続可能な利用に係る経験の共有を目的とした漁業及び養殖に関する協定、への署名に立ち会った。

（7）ソールベルグ首相のメキシコ公式訪問は、112年にわたる両国の友好関係を強固にするもの。ノルウェーは、欧州自由貿易連合（EFTA）加盟国の中でメキシコにとって第2位の貿易相手国。

5 選挙監視団受入れに関するOASとの合意

14日、墨外務省は本年7月に行われる同国選挙への外国人選挙監視団受け入れに関する米州機構（OAS）との合意に署名したところ、概要は以下の通り。

コミュニケ No.93

（1）第8回米州サミットの機会を捉え、14日、ペルーのリマにおいて、ビデガライ外務大臣及びアルマグロ（Luis Almagro）米州機構事務総長は、2018年7月1日の墨連邦・地方選挙にかかる米州機構外国人選挙監視団に対する特権・免除に関する合意に署名した。

（2）本件合意は、本年の選挙プロセスに米州機構を随伴させるための墨選挙当局からの招待に応じたものであり、外国人監視団の墨国内における業務の遂行に必要な法的権利、特権及び免除を保証するものである。

（3）本監視団は、様々な国の専門家から成る様々な分野のチームによって構成される予定であり、ジェンダーの観点、選挙に関する政治資金及び選挙実施の技術面といった主立った諸点を検証することを可能にする様々な方法を取り入れるだろう。また、本監視団が、メキシコ選挙制度の強化に資する助言を与えることもありえよう。

（4）ビデガライ外相は、メキシコは、本件合意によって、民主的な価値を守ること及び全てのレベルにおいて選挙監視を可能にする約束を改めて表明すると述べた。また、同外相は、国内選挙機関の独立性及び強固さに加え、本監視団は、選挙における公平性、透明性及び信頼性を強化する追加的要素となっており、メキシコは、選挙において国際社会が随伴することの重要性を評価していると強調した。

（5）1962年以降、米州機構は西半球の27か国において240以上の選挙監視団を展開してきた。メキシコの場合、今回が4回目の外国人監視団となる。

6 ペニャ・ニエト大統領の第8回米州サミット出席

14日、ペニャ・ニエト大統領は、ペルー・リマにて開催された第8回米州サミットに出席したところ、同大統領の全体会合における発言のポイントは以下のとおり。

（1）麻薬取引、暴力及び移民を含む大きな課題は、孤立した対応では解決することができない。メキシコは、対話と協力に基づいて地域の大きな課題を解決するため、私たちの

国々の能力に完全な信頼を寄せつつ、この米州会議に再び参加する。

(2) この数十年、この米州サミット及び他のフォーラムにおいて、①我々の民主主義を強化するため、②貿易を推進するため、及び③我々の社会の福祉条件を向上させるために、共に取り組んできた。メキシコ国民は、メキシコの発展はこの地域の発展と結びついていると理解している。そのため、我々はこの大陸の各国と、より一層緊密な関係を発展させるよう模索してきた。今日では、孤立することは、取り残されることを意味する。我々は、共有する価値観を基礎に、直面する挑戦を克服するために共に取り組んでいかねばならない。

(3) メキシコは、最近ジャーナリストが殺害された事案に関し、エクアドル国民、モレノ (Lenin Moreno) エクアドル大統領及び殺害されたジャーナリストの家族に対して連帯の意を表明する。

(4) シリアで13日夜に発生した事案について、メキシコは、化学兵器の使用に対する最も広範な非難を改めて表明する。また、国際法及び多国間の枠組みによって、非常に残酷な結果をもたらすこの種の兵器の使用を終結させることを願う。

(5) 経済分野では、私たちの国々の多くはここ数十年において経済成長を記録している。ラテンアメリカ及びカリブ地域において、ここ直近の24年間は、過去のどの同じ期間よりも多くの貧困の撲滅を記録した。

(6) 本米州サミットへの不参加をもたらすこととなったベネズエラにおける危機的状況を懸念している。メキシコは、ペルー政府の決定への支持を改めて表明する。我々は、民主主義の再建を通じて、ベネズエラ国民自身が平和的に危機を解決できることを願っている。メキシコは、米州機構のリマ・グループ又はこの目標に貢献する他のあらゆる手段によって、外交ルートを通じてこの目標に貢献するため引き続き取り組んでいく。

(7) メキシコは、公的部門から汚職を追放するために現在実施過程にある一連のイニシアティブを推進してきた。今朝採択したリマ協約 (Compromiso de Lima) の目標はこれらの努力と整合的なものであり、メキシコの支持を保証する。

7 ビデガライ外相の訪仏

16日、フランスを公式訪問中のビデガライ外相は、マクロン仏大統領及びル・ドリアン (Jean-Yves Le Drian) 仏欧州・外務相当相と会談を行ったところ、墨外務省発出のプレスリリースに基づく概要は以下のとおり。

コミュニケ No.98

(1) マクロン大統領との会談

(ア) 公式訪問の初日、ビデガライ外相は、マクロン仏大統領と会談を行い、好機を捉えるに前向きな二国間関係を進めていく点で一致すると共に、墨仏を結びつける絆を再確認することで一致した。

(イ) エリゼ宮殿にて、ピデガライ外相及びマクロン大統領は、二国間同盟を強化する計画を推進するとの約束を再確認すると共に、両国関係を強化するための提案及び活動を行っている仏墨戦略評議会のメンバーの訪問を受けた。

(ウ) マクロン大統領は、両国国民を結ぶ友好及びペニャ・ニエト大統領との友情につき言及した。

(エ) 仏墨戦略評議会に関し、マクロン大統領は、この協力の枠組みに参加している墨仏の文化、科学、芸術及び企業各界の代表者に対する表彰を行った。

(オ) マクロン大統領は、墨仏二国間の課題に関する約束を強調し、両国の対話に資する具体的な提案を両国政府に行うために仏墨戦略評議会が果たしてきた努力に対して大きな賞賛を送った。また、同大統領は、観光、環境、エネルギー、科学、教育及び学術・文化協力における計画について言及した。

(2) ル・ドリアン欧州・外務担当相との会談

(ア) ピデガライ外相は、ル・ドリアン仏欧州・外務担当相と会談を行い、国際場裡における課題について意見交換を行った。

(イ) 両大臣は、ガルシア (Maria Cristina Garcia Cepeda) 墨文化大臣及びニセン (Francois Nyssen) 仏文化大臣によって行われた、「自然現象によって損害を受けた歴史的記念物の修復及び保存のための、文化遺産協力に関する行政取決め」への署名を祝した。

(ウ) 両外相は、仏墨戦略評議会からの勧告を受けとった。

(エ) 同評議会の課題においては、マスメディアと創造産業、映画産業、気候変動、イノベーションと都市交通、環境問題の解決方法 (再生可能エネルギー、水利用及びゴミ処理)、企業、宇宙研究、農産加工業のような新しいテーマを取り入れた。

(オ) 同評議会は、両国関係の新時代を作りたいという墨仏両首脳の要望に応じて、2013年に創設された特色ある協議フォーラムである。

8 ペニャ・ニエト大統領からディアスカネル・キューバ新議長への祝意伝達

20日、ペニャ・ニエト大統領は、ディアスカネル・キューバ国家評議会新議長に対し、電話にて議長就任に関する祝意の伝達を行ったところ、墨大統領府発出のプレスリリースに基づく概要は以下のとおり。

(1) 20日、ペニャ・ニエト大統領は、キューバ共和国人民権力全国議会におけるディアスカネル国家評議会新議長の選出の後、同新議長と電話会談を行った。

(2) ペニャ・ニエト大統領は、ディアスカネル新議長に対し、議長として選出されたことに祝意を表すると共に、メキシコは、政治対話、協力及び貿易・投資交流を引き続き深化させていく用意があると改めて述べた。

(3) また同大統領は、ディアスカネル新議長に対し、メキシコ国民からキューバ国民への親愛の情を伝達するよう依頼した。

9 北朝鮮による核実験及び I C B M の試験発射の中止発表に関するプレスリリース

20日、墨外務省は、北朝鮮による核実験及び I C B M の試験発射の中止発表に関し、プレスリリースを発出した。

コミュニケ No.106

「タイトル：メキシコは朝鮮半島の非核化を支持する」

- (1) 墨外務省は、北朝鮮が4月21日から核実験を中止し、また、I C B M の発射実験を中止する旨発表したことに関し、墨政府としてこれを歓迎するとともに大変勇気づけられるものと考えている旨、表明する。
- (2) メキシコは、東アジア地域において関係する全ての国の支持を得て、朝鮮半島を完全な非核化に導くための南北間の対話が改めて行われることを歓迎する。国際社会は、当該地域の安定及び平和を確実なものとし、核兵器の完全な廃絶のための進展を達成するまで、引き続き注視しなければならない。

10 ペニャ・ニエト大統領の欧州歴訪

21日より欧州歴訪中のペニャ・ニエト大統領は、翌22日、ドイツ・ハノーバーにて Hannover Messe（国際産業見本市）開会式等に出席した後、23～24日にオランダ、25日にスペインを公式訪問したところ、墨大統領府発出のプレスリリースに基づく概要は以下のとおり。

(1) オランダ公式訪問

(ア) ペニャ・ニエト大統領は、ウィリアム・アレクサンダー・オランダ国王陛下と会談を行った。

(イ) ペニャ・ニエト大統領は、マルク・ルッテ (Mark Rutte) オランダ首相と会談を行い、通商・投資関係を発展させるという共通の関心について対話を行った。特に、両首脳は、墨エネルギー改革に関し、同改革が、オランダ企業が新しく多様な墨エネルギー市場に参加するための透明性が高く、適切な枠組みを提供していると強調した。

(ウ) 両首脳は、国連改革、SDG 2030 アジェンダの実施、国連平和維持活動及び水資源問題等の両国で広く意見が一致しているグローバル課題における重要テーマについて議論した。

(エ) 両国の法的枠組みを強化するため、航空の接続性、投資促進、博士課程向け奨学金を含む学术交流等の6つの協力文書、及び科学技術協力に関する両国の活動の指針となる「両国間協力に関する共同宣言」が署名された。

(2) スペイン公式訪問

(ア) ペニャ・ニエト大統領は、マリアノ・ラホイ (Mariano Rajoy) スペイン首相と会談

を行い、両国関係の現状を評価すると共に、経済連携協定、政策協議及び墨 EU 間の協力等の法的枠組みの刷新に関し、また地域及びグローバルなテーマに関し意見交換を行った。

(イ) ペニャ・ニエト大統領夫妻は、フェリペ6世スペイン国王陛下及びレティシア同王妃両陛下と会談を行った。両元首は、スペイン語の普及と促進のためのスペイン及びメキシコ共同の取り組みにつき意見交換を行った。

(ウ) 25日午後、ペニャ・ニエト大統領は「メキシコの家 (Casa de Mexico)」が入ることとなる建物を訪問する。「メキシコの家」は、経済、文化、観光、食文化、スポーツ及び企業イノベーションを促進するためのプロジェクトとなり、墨出版社 **Fondo de Cultura Economica** の書店、多目的ホール、メキシコ料理レストラン、料理教室、造形芸術家及び工房用の展示スペース、並びにメキシコ現代芸術の常設展を備える予定である。